

平成 22 年度は、日露戦争に参加した軍人の中から毎号一人を取り上げて、図書館史料室が所蔵するその人物の関連史料を紹介しています。

《 ^{ながおか} 長岡 ^{がいし} 外史 1858～1933年 》

一日露戦争で山県有朋を支え、後にスキー導入にも尽力した髭の將軍一



旅順開城に関する件

（登録番号：大本営一日露戦役-M38-1-114）

長岡中将（旧陸士 2 期）は日露戦争当時、大本営陸軍部参謀次長として勤務しました。この史料は、明治 38 年 1 月 1 日、旅順要塞が開城した際、同中将（当時少将）が大磯の山県有朋参謀総長に送った報告（電報）です。『攻囲軍司令官ヨリ一日午後九時発左ノ報告ニ接ス、只今「ステッセル」ヨリ開城ノ書面ヲ受領セリ委細後ヨリ・・・開城ニ付テハ敵将「ステッセル」ガ最後マテ能ク防戦シタル忠勇ヲ没セサル様取計フヘキ旨陛下ヨリ御沙汰ヲ乞ヒ総長ノ名ヲ以テ第三軍司令官ニ訓電セントス・・・』とあり、旅順開城の報告とステッセル中将の処遇等について指導を仰いでいます。旅順開城直後の興奮が伝わる史料です。



スキー研究報告及意見

（登録番号：陸軍省一大日記乙輯-M44-9-17）

日露戦争後、長岡中将は陸軍省軍務局長、第 13 師団長、第 16 師団長等を歴任しました。この史料は、明治 44 年 4 月、同中将が第 13 師団長の時に陸軍省へ提出した「スキー研究報告及意見」です。スキーの研究は、オーストリアから来日したフォン・レルヒ少佐を教官とし、隷下の歩兵第 58 連隊（高田）の大尉以下 12 名をもって同年 1 月初旬から 3 月中旬に掛けて行われました。同報告の冒頭には『登行ニ於テハ標（かんじき）ヨリ遙カニ速カナルノミナラズ彼ノ登行シ能ハサル傾斜ヲ攀登シ降行ノ際ハ滑走直下其疾キコト「ウォーターシュツト」ノ如ク・・・』と記述されています。スキー導入期の貴重な史料です。

《お知らせ》

史料保存のためのマイクロ撮影にともない一時的に閲覧できない史料があります。

詳しくは、防研ウェブサイト「お知らせ」をご覧ください。

※ 記事に関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。なお、記事の無断引用はお断りします。

防衛研究所企画室

専用線：8-67-6522、6588

外線：03-3713-5912

FAX：03-3713-6149

E-mail: nidsnews@nids.go.jp

※ 防衛研究所ウェブサイト: <http://www.nids.go.jp>